

(仮称) 桜川市複合施設基本設計概要書

注…この内容は基本設計完了時のものであり、実施設計の中で内容が変わることがあります。



鳥瞰イメージ図 (南東より)

1. 計画概要

【敷地概要】

| | |
|--------|------------------------------------|
| 建築場所 | : 茨城県桜川市東桜川 1-21-1 |
| 主要用途 | : 公民館・図書館・市役所支所機能 |
| 都市計画区域 | : 都市計画区域内 (市街化区域) |
| 用途地域 | : 第一種住居地域 |
| 建ぺい率 | : 60%+10%(角地) |
| 容積率 | : 200% |
| 日影規制 | : 3-5 時間 測定面高さ 4.0m |
| 道路斜線 | : 適用距離 20m 勾配 1.25 |
| 防火地域 | : 指定なし |
| 地区計画等 | : 指定なし |
| 敷地面積 | : 7,790 m ² (商工会議所部分含む) |

【建築概要】

| | |
|------|--------------------------|
| 建築面積 | : 約 1,490 m ² |
| 延べ面積 | : 約 3,500 m ² |
| 構造規模 | : RC造一部鉄骨造 / 地上 3 階 |
| 耐火種別 | : 耐火建築物 |
| 建物高さ | : 約 16.8m |
| 建ぺい率 | : 約 19% (上記敷地範囲に対して) |
| 容積率 | : 約 46% (上記敷地範囲に対して) |



外観イメージ図



内観イメージ図

2. 設計コンセプト

桜川の“風景・文化・活動”をつなぐ『さくらがわcommons』

(仮称) 桜川市複合施設は、あらゆる学びの拠り所となる「図書館」、多様な活動の舞台となる「公民館」、そして市民の生活を支える「市役所支所」の3つの機能が集まった施設となります。また、敷地の前面には市を象徴する河川「桜川」が流れ、周辺には高峯のヤマザクラに代表される豊かな里山の風景が広がっています。

「図書館」は、市として初めて整備されることから、デジタル技術(電子図書館やデジタルアーカイブなど)の活用等も踏まえた、これまでの図書館像に捉われない桜川市ならではの在り方を目指します。そして、価値観が多様化する現代における様々なニーズにこたえる「公民館・市役所支所」を“融合”させ、周辺の豊かな環境も取り込んだ計画にすることで、市民ひとりひとりが自分の居場所として心から感じられ、桜川の“風景・文化・活動”が将来に渡りつながっていく『commons』としての施設を作ります。

「さくらがわcommons」の基本的な考え方

(仮称) 桜川市複合施設の基本方針
(仮称) 桜川市複合施設建設事業計画書より

公民館と図書館の融合が生み出す
新たな学習スタイル

先進の図書館+公民館の再生
=利用したくなる学習施設

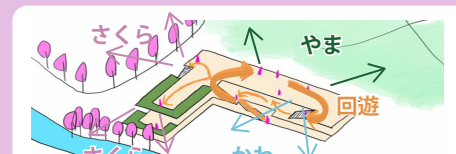
知識と学び、人と人が交わる、
活動と交流のフォーラム

まなびの舞台としての「commons創出」



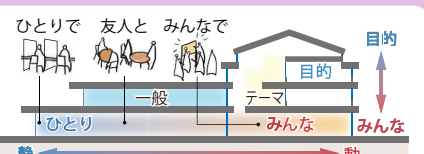
「人的支援(レファレンス等)」と「コンテンツ(本や資料)」と「多様な活動の場(空間)」が近接した「commons」をつくることで、新しいまなびと出会いを生み出します。

魅力をつなぐ「立体回遊ミュージアム」



魅力的な風景を感じながら、賑わいや多様なコンテンツが連続する立体回遊空間とし、誰もが利用したくなる『ミュージアム』のような場所としシビックプライドの醸成にも寄与します。

多様な居場所「サードプレイス」



みんなで議論をしたり、イベントに参加してもよい、一人静かに本を読んだり、コーヒーを飲んだりしてもよい、誰もがここにいたいと心から思える多様な居場所を作ります。

※commonsとは・・・市民や職員により自発的に多様な活動が展開し、その経験や記録が共同知として共有されていくことで継続的に発展・運用される場の在り方。

「さくらがわcommons」を生み出す4つの特徴

桜川commonsの特徴①

さくらがわテラス (仮)

前面の桜川や周辺の里山の風景や植生なども学びのコンテンツととらえた自然学習の場として設けます。

気持ちのいい外部空間での読書や公民館機能と連携した利用など、外部での多様な活動の受け皿としても機能します。

桜川commonsの特徴③

クリエイティブハブ & スタジオ (仮)

市民が多目的に自由に使える協働の場として設けます。

様々な工作や撮影など多目的に使えるスペース「スタジオ」と図書館のブラウジングコーナー・市役所支所の待合所・カフェ等がセットになったワークスペース「ハブ」をベースとします。

この空間の一部は、防音カーテンで簡単に区切りイベントステージとして利用できるなど、状況に応じて多目的に利用できる場所とします。

桜川commonsの特徴②

さくらがわミュージアム・メディアマウンテン (仮)

吹抜けに面した大きな段状の壁面棚で、桜川市ならではのあらゆるメディアが集まる、まさに市特有の「ミュージアム」のような場所です。

桜川市独自のコンセプトで選考された本や資料、公民館での活動履歴や成果品の展示、関連部署が収集・制作した資料・物品の展示、更には図書館基本構想(R2.12)に示されるデジタルミュージアムのコンテンツなど、多種多様なメディアが展示可能な棚として設けます。

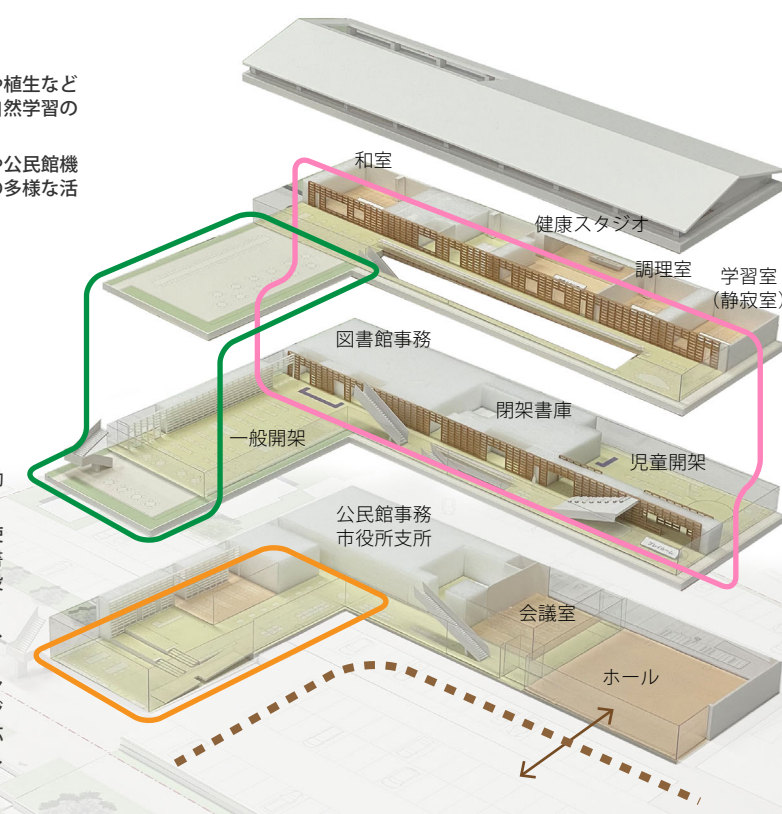
定期的に変化・更新され、わかりやすい展示形態をとることで、常に新鮮な発見に出会えるような在り方を目指します。

桜川commonsの特徴④

さくらがわひろば (仮)

桜川の各種お祭りや外部でのイベントが開催できるよう、南面駐車場は「ひろば」としても使える計画とします。

ホールと連携使用できる建具の設置、夏場の照り返しが少なく水はけの良い舗装とするほか、外部電源や給排水を設けるなど多目的に使える設えとします。

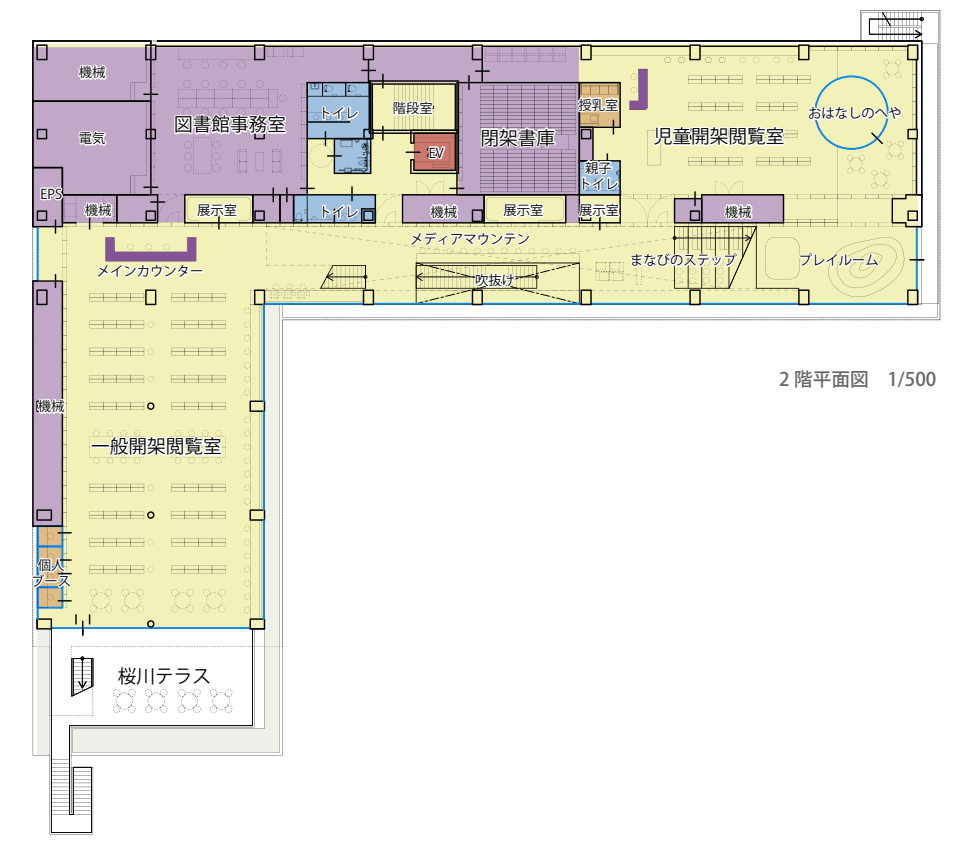


複合施設の特徴

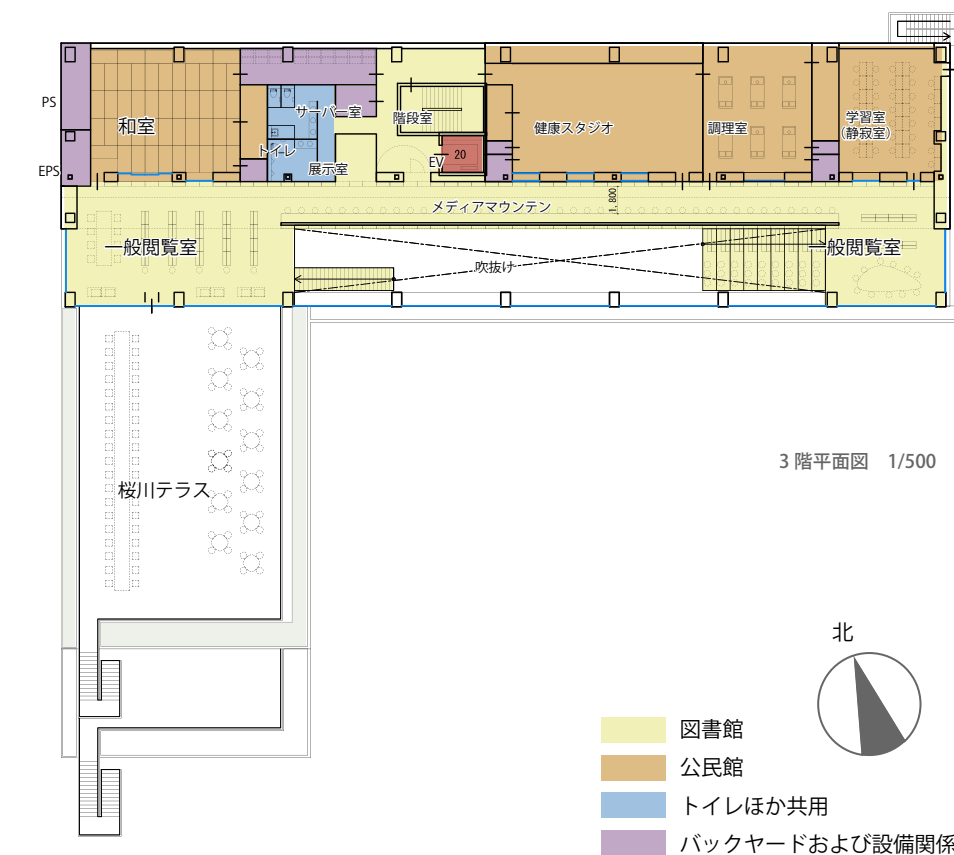
3. 建築計画



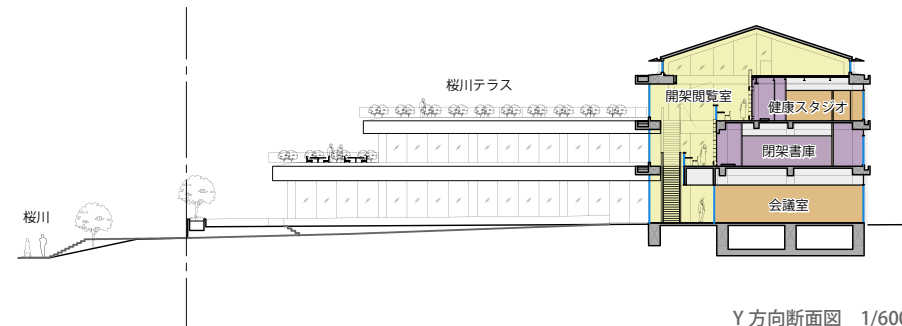
1階平面図兼配置図 1/500



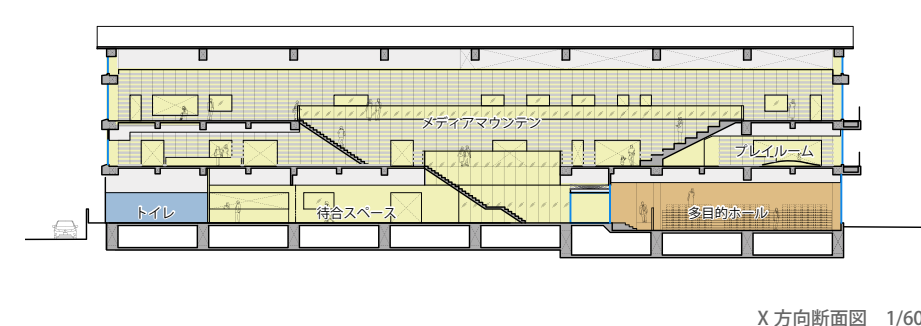
2階平面図 1/500



3階平面図 1/500

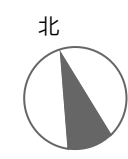


Y方向断面図 1/600



X方向断面図 1/600

- 図書館
- 公民館
- トイレほか共用
- バックヤードおよび設備関係
- エレベーター



※各図は基本設計段階のイメージ図です。今後の検討の中で変更となる可能性があります。

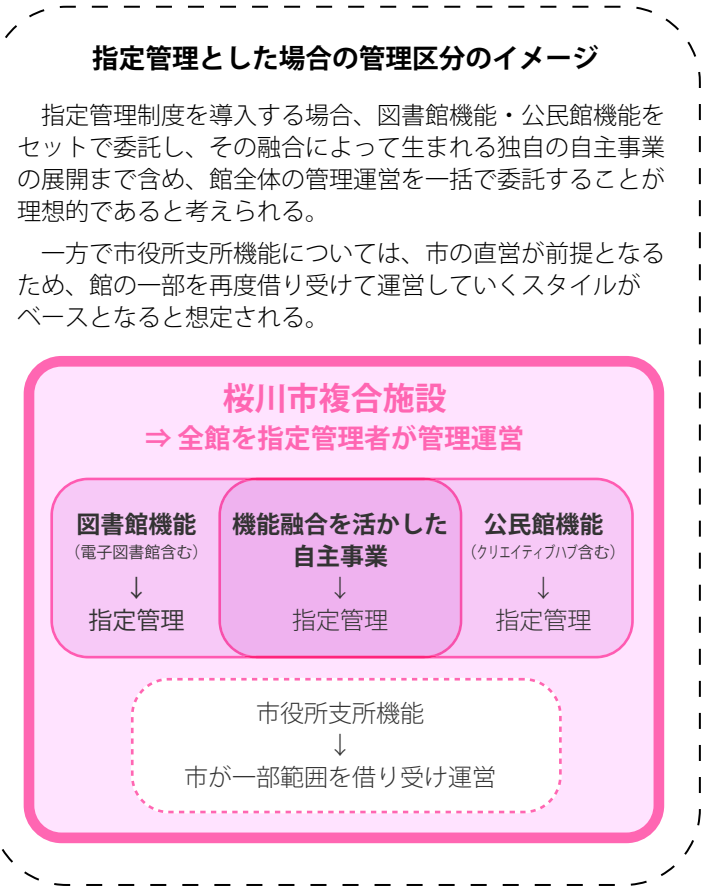
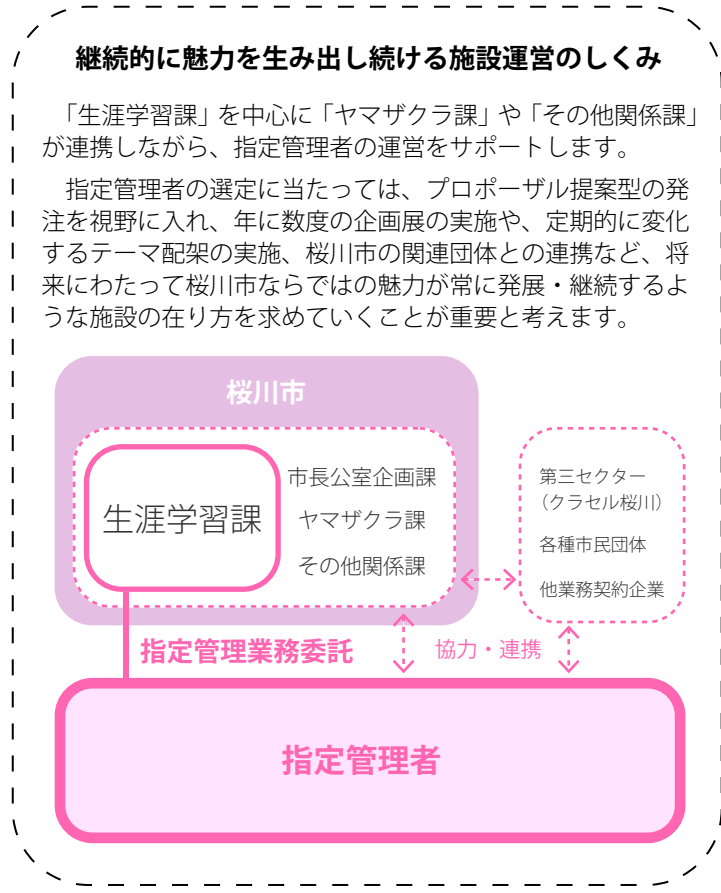
4. 施設全体の運用イメージ

本施設は図書館機能・公民館機能・市役所支所機能の3つの機能が複合した施設となります。これらの機能が単なる複合を超えて「融合」し、互いに相乗効果が得られる施設となることを目指します。(例：公民館機能である調理室で、図書館のレシピ本を活用した料理教室を開催、公民館機能であるクリエイティブスタジオで制作した本を図書館の棚に展示する・・・など)

また、これらの機能を中心としたコンテンツの充実やにぎわいが、マンネリ化せずに常に新しい視点を持ちながら将来にわたって継続するような仕組みの構築も重要と考えます。

このような施設の在り方を考えたとき、図書館については、市ではじめての図書館ということもあり、運営のための人材やノウハウが蓄積されていないという懸念があります。また、公民館機能については、近年多様化する市民ニーズに対し、民間活力の導入により継続的かつ柔軟な総合的な学びのサービス提供が期待できると考えられます。

これらの状況を踏まえ、本施設においては図書館・公民館を含めた館全体の一体的な指定管理の導入も視野に入れながら、委託コスト等も含め今後検討を進めていきます。



5. 蔵書計画(図書館)の考え方

本施設の図書館機能は、桜川市ではじめての図書館となるため、一から蔵書計画を作り上げる必要があります。

また、桜川市では電子図書館サービスである「さくらがわ電子図書館～SaGaCitE～」を2021年2月より提供開始しており、今後も継続的に発展させた運用を目指しています。

これらの背景から、今も発展が進む電子図書館でまかなえる一定の蔵書については、実物の本としての所蔵を制限する方針とし、先の桜川市図書館基本構想に示したデジタルミュージアムの理念と合わせて、限られたスペースを本だけでなく活動の場などに有効活用するハイブリッド型の図書館を目指します。

実物の本として網羅的に大量の蔵書を抱える従来の図書館から、①本との出会いや②人との出会い、③この場所に来ないと得られない特有の情報やまなびとの出会いを重視した『出会い重視型』の図書館とします。

【全体の所蔵冊数のイメージ】

開架：5.2万冊(一般・児童・YA・専門書)
 +α(さくらがわミュージアム蔵書)
 閉架：4.5万冊
 計：約10万冊(+電子図書館)

- ①さくらがわミュージアムの詳細な在り方や、市の図書館として適切な選書・収書計画、蔵書構成比等については、管理方針策定と共に引き続き検討します。
- ②指定管理者制度を導入する場合は、公募型プロポーザル等の実施により、選書方法やさくらがわミュージアムの継続的な運用等についても提案を求める方針とします。

6. 配架・展示のイメージ図(案)

